



NO. 014

FAS通信

平成16年6月号

株式会社福地建装

上磯町中野通321番地

TEL 0138-73-5558

夏場のエアコン

四国・九州が先週梅雨入りしましたが、私たちの生活は常に湿気と共にあり、特に日本の気候は、夏場に気温 30 度以上、そして、湿度が 80%に達する事があります。人は汗をかくことによって、体の表面から熱を逃がして体温を下げますが、蒸し風呂サウナのような 80%も越える湿度の中では、発汗作用がうまく機能しなくなります。

昔は、うちわや扇風機で体温を下げ、涼しむことが多かったのですが、最近では、エアコンを使用する機会が多くなりました。エアコンを使用すると室温と湿度を急激に下げ、それにより体からも熱が奪われ、冷房病のような状態になってしまいます。また、夏場は特にエアコンを使用しますが、日中冷房をかけ、寝る前にスイッチを切ったとします。するとそれまで冷たく冷やされていた吹き出し口に結露が起こり、温度の上昇とともにカビや細菌が喜ぶ環境をつくってしまいます。カビは一晩かかって発芽し成長します。そして、朝にエアコンのスイッチを入れると同時にカビが飛び散り、人の体に入る可能性があります。これを防ぐ一番の方法は、エアコンのスイッチを止めないことです。ファースの家も夏場は基本的にはエアコンを止めません。それが難しい家では、スイッチを切る前の 1 ~ 2 時間は送風運転にして、エアコンの中を乾かしてあげる事が良いのではないのでしょうか。

忍び寄る湿気の怖さ

台所や風呂場からでる湿気、燃焼式の暖房機を使ったときの湿気、家の中には沢山の湿気が、あふれております。

『湿度の高い空気が嫌がられるのはなぜでしょう。』と質問されると、一言で言い表すのは難しいものです。湿度の高い空気がいろいろなところで悪さをしているのは感じているはずですが、空気の中に混合し、気化した水はどこへともなく飛び散っていきます。これが、壁の中・天井・床下と移動し、冷やされた部分で水になってしまうのです。窓ガラスが一番わかりやすいかもしれませんが、この水分が年々、柱や土台などの主要構造材に吸い込まれていくことを考えるとぞっとします。水分を吸い込んだ構造材は、それが原因で腐りがおこります。そこには、それを餌とし、住処にするシロアリ君もやってきます。

気化した水が及ぼす悪影響はそれだけでは飽きたらず、押入れの中・タンスの裏・タンスの中・布団や衣類・雑誌などにも入り込みカビの発生となるのです。また、普段目に見ることはなかなか出来ませんが、相対湿度が 70%以上になるとダニ君にとっては、最高の湿度となり活発に活動し、その時の温度が 20 ~ 30 度なら絶好の場となるそうです。

特に、気管支喘息のアレルゲンであるチリダニは、水を得た魚のように家中に増えていきます。対処方法としては、湿度を 60%以下にしてあげることにより、ダニ君の発生を弱める事ができます。ファースの家では、湿度が高くなった場合、除湿機が湿度を下げてくれます。